



おいっちにっさん!

# みんなであそぼ、0123

～0123広場運営委員会だより～ 第2号 2021年6月



## 読み聞かせで 脳を育てる

茅野市が全国に先駆けて、赤ちゃんに絵本を贈るファーストブックプレゼントをスタートさせたのは、2000年（平成12年）です。今年で21年目を迎え、贈られた絵本は2万冊を超えました。

読書の原点である“ことば”と“いのち”が育ってほしいと願って活動を続けています。

出生時に一冊、4ヶ月健診時にもう一冊贈られています。

子どもは、生活の中で体験や経験したことを絵本や遊びの中で発見して喜びます。そこでファーストブックには、日常の生活や家族、周りで出会った動物や植物などの絵本をリストアップしました。加えて言葉を豊かにする「ワンワン」「ゴトンゴトン」などのオノマトペ（擬声語）絵本も積極的に選んであります。オノマトペはリズムもあって発声しやすいので楽しく感じられる絵本です。更に、子育ての原点の「あやしことば」を絵本にした『いないないばあ』やわらべ唄の絵本も仲間に入れました。

小中学校でも声に出して読む「音読」や「朗読」の重要性が叫ばれ授業に取り入れられています。一方大人も声に出して読むことが脳の活性化になると言われ、福祉施設などでも導入され効果をあげています。

茅野市図書館の本の貸し出しベストテンには、毎年ファーストブックが上位を占めています。乳幼児からの読み聞かせが定着している姿と言えましょう。

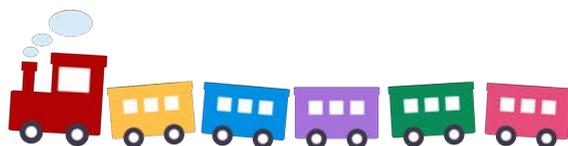
乳幼児期からの読み聞かせは、ことばの獲得や想像力を育てるなど読書環境を充実させてくれます。この活動は、最近、脳の活動を活発にさせると脳科学の世界からも注目されています。

読み聞かせをしてもらった子どもは、言葉が豊かになって想像する力がつくとともに、脳が活発に働き、コミュニケーション力が育つと言われています。近しい大人の心のこもった読み聞かせが子どもの「聴く力」や感情に関係する「脳活動」の発達を促します。

一方、読み聞かせをしてあげる大人の脳も1人で読書する時よりも脳が強く活動するのだそうです。育児ストレスも低下すると言う報告もされています。

親子の情緒的絆（愛着）は、乳幼児期の大人関係発達の基盤です。読み聞かせをして、楽しいひとときをいっぱい作っていきましょう。

牛山 圭吾さん（0123広場運営委員・元茅野市図書館長）



## ～不安なこと・困っていることはありませんか～ 相談BOXより



Q1:  
人見知りをしません。誰にでもニコニコ寄って行ってしまいます。発達に問題があるのではと心配です。

A1:人見知りをしない子、少ない子には二通りのお子さんがいるように感じます。心配されるように、発達に問題がある子と、他人と接する機会が多く人慣れして人見知りが少ない子です。その子の素因・性格と環境によるものだと思っています。

自閉症の子が人見知りをしないのは、そもそも人に興味がないので人見知りをしないように見えます。人見知りをしないというより、そっけないと感じられるかもしれません。心配でしたら小児科や発達支援センターで相談してみたらどうでしょうか。

Q2:  
離乳食で二回食をしていますが、一日を通してミルクの量が減りました。離乳食を食べた後はたっぷり飲ませたほうがいいと思いますが30ml程しか飲みません。栄養が取れてるか、喉が乾かないか等心配です。

A2:離乳食を開始する前には1回200mlくらいを1日5回くらい哺乳していたと思います。母乳栄養ではどのくらい飲んでいるのかお母さん方には分かりづらいですが、同じよう1日に大体1000ml位哺乳しています。体重が7kg位になると母乳（ミルク）だけでは栄養が不足します。そこで離乳食を与えていただく必要が出てきます。離乳食をしっかり食べれば満腹になりますから、その時に飲むミルク量は少ない量になります。それだけしっかり固形物を食べられている証拠でもあります。一日に哺乳するミルク量は、離乳食開始前より少なくなるのが普通です。体重を測り母子手帳のグラフで確認してみましょう。体重が増えないようであれば小児科で相談をしてください。少しずつ増えていけば心配ありません。

(0123広場運営委員会 副委員長 諏訪中央病院 小児科 武井義親先生)

質問は館内のBOXの他にこちらのQRコード  
からも受け付けています！

